



つづき
續 創生 さん

県内初 2級建築大工技能士を 称する高校生

将来は、宮大工として
木材加工をして生きていきたい

2 月に行われた2級建築大工技能検定試験に合格した、下関工科高等学校3年生の續創生さんを紹介します。

規矩術と呼ばれる大工の技を使って課題を完成させるこの試験。5時間30分という限られた時間の中で、現寸図を作成し、木ごしらえ、墨付けの手順を経て、組み立てを行います。受験者の多くは実務経験者。續さんは高校生として県内で唯一合格を果たしました。

中学校の夏休みの宿題で巣箱を作るなど、もともと物作りが好きだという續さん。大工作業の魅力は「いろいろな木材に触れることができ、うまく加工できたとき達成感で満たされる場所」だと話してくれました。

續さんは、6月に行われた高校生ものづくりコンテスト中国地区大会で優勝。11月に行われる全国大会に出場します。高校では、授業に加え建設研究部に所属し日々技術を磨いています。



▲小さい頃はレゴブロックやLaQで遊ぶのが好きでした。



3年ぶりの 維新・海峡 ウォーク



市長コラム /
希望の風
市長の部屋

皆さんこんにちは！ 前田晋太郎です。先日、3年ぶりの維新・海峡ウォークが開催され、私も無事に30キロを完歩しました！ 参加者規模を縮小、開催時期を4月から6月に延期し、開会式を開催しないなど、感染対策に最大限の配慮がなされた素晴らしいイベントになりました。開催にご尽力を頂いた実行委員会の皆さんをはじめ、関所などで各地区を挙げておもてなしを頂いた地域の皆さんに、心から感謝を申し上げます。

今年の海峡ウォークは、なんととしても開催したいと思っていました。なぜなら、年度始めに開催するその年の行方を占う重要なイベントと位置付けていたからです。そして、屋外型のイベントであり、感染対策ポイントを押さえていけば必ず無事に開催できると信じていました。

最終決断をしたのはコロナ第6波の最中でした。苦しい決断ではあったと思いますが、富永実行委員長をはじめとする関係者の皆さんの「下関を元気にしたい」「コロナの閉塞感を打破したい」という熱い思いが、壁を打ち破ったのだと感じています。再開を強く願いながらも昨年急逝された前実行委員長の下本一公さんも、きつと天国で喜んでいてと思います。

「コロナには気を付けながら、どう工夫をすればイベントを開催することができるか」その視点に立って、これからもチャレンジをしていきたいと考えています。